

# アトリエ 琉游舎 だより 42号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

2018年12月19日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

## 新年祝祷会

元旦午前零時より琉游舎にて

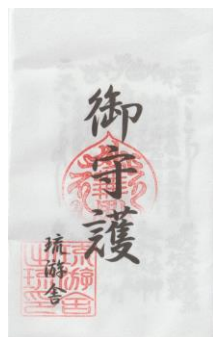
★近くて一番早い初詣 琉游舎の新年祝祷会★

★除夜の鐘とともに新年祝祷会の法要を行います★

★30分ほどの法要です 新年をお祝いいたしましょう★

★新しい一年が豊かで実りある年になることを祈念しましょう★

★松の内にお越しいただいた方に琉游舎の手作り御守護を差し上げます★



ご守護（お守り）はこれを持っていれば願いが叶うとか、安心安全に毎日を送ることが出来るというものではありません。もちろん頼みごとの依り代でもありません。持っているだけでは唯の紙切れです。

お守りは「家内安全でありますように」「志望校に受かりますように」「事故を起こしませんように」という自分の誓いを、ちゃんと一年間忘れないようにと見守ってくれるもの。私たちの誓いの備忘録であり見届け役のようなものです。

一年の計は元旦にあり、でも三日坊主も人の常。そんな私たちを一年間密やかに見守ってくれる守護袋になればよいなと思っています。琉游舎でお待ちしています。

木 金 土 日

### 12・1月のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
			20 映画会 13:30	21	22	23
24	25 読書会 13:30 居酒屋の会16時	26	27 映画会 お休み	28	29	30
31	1月1日 新年祝祷会 0:00	2	3 映画会 お休み	4	5	6 写経会 13時半
7	8 読書会 13:30	9	10 映画会 13:30	11	12 詩話会 13時半から	13
14	15	16	17 映画会 13:30	18	19	20
21	22 読書会 13:30	23	24 映画会 13:30	25 居酒屋の会 16時～	26	27

**読書会**  
12月25日(火)  
1月8日  
1月22日  
13時半から

**写経会**  
1月6日(日)  
13時半から

**詩話会**  
1月12日(土)  
13時半から

**映画会**  
毎週木曜日  
13時半から

12月10日を過ぎてやっと冬らしくなってきました。霜柱が立ち、絞った雑巾も朝の8時ならばカチカチになってしまいます。最後の一葉も散って落ち葉掃除はこれで今年最後を迎えられそうです。ここコリーナの冬は昼も夜も空のきれいな季節。空気が耳元でキーンと音を立てるような冷え込みが厳しい朝、まだ暗い空には星がまぶしいくらいに煌めいています。12月に入ると明けの明星が見られるようになりました。一目でそれと分かるこの星は、日の出前後にしか輝くことができない自分の存在を懸命に主張しているのでしょう、燃焼と呼ぶのがふさわしい力強い輝きです。真青な空に、丸い地球をなぞるかのように飛行機雲が北に向かって伸びていきます。どこに向かって飛んでいくのかと考えると、逆に東に向かってもう一つの飛行機雲。青空に描かれる白い線の行方について見とれ寒さを忘れてしまい、自分のくしゃみで我に返るありさま。冬の冷え冷えと澄んだ空気の中で一人空に向き合っていると、宇宙に包まれて自分は孤独であることと、宇宙のすべての存在と自分は共棲しているのだということの相反する思いを強くします。

お釈迦様の言葉を集めた「スッタニパータ」に「犀の角」と題された章があります。最初の偈文です。「あらゆる生き物に対して暴力を加えることなく、あらゆる生き物のいずれをも悩ますことなく、また子を欲するなかれ。況や朋友をや。犀の角のようにただ独り歩め。」注1 41ある偈文の前半部分はそれぞれ人と交わることによって引き起こされる「貪欲（むさぼり）瞋恚（いかり）愚癡（無知）」の根本的な3種類の煩悩を強く戒め、そうならないためには「犀の角のようにただ独りで歩め」という言葉で全て締めくくられています。インドでは犀の一本の角は「孤独」の象徴です。お釈迦様は「犀の頭頂部にそそり立つ一本の角のように、独り自分の足で自ら歩いていきなさい」とおっしゃっています。相変わらず厳しい言葉ですね。行いの道を歩むとき私たちはお釈迦様や善知識（善き友）と伴に歩みます。お釈迦様の教え（法灯明）をそれぞれ共通の灯火としながら、おのおのあるがままの道を信と行（自灯明）を頼りに歩いて行くのです。以前もお話ししたように注2共通の「法」と独自の「信行」ふたつの灯明を頼りに歩まなければならないのが仏の道です。自らの「信と行」はそれぞれ皆違います。仲間だから一緒にやろうと言ってもそれはあるがままの行いにはなりません。だからお釈迦様は「犀の角のようにただ独り歩め」といわれるのです。自灯明は孤独の灯明。孤独でなければ自らの道を歩むことはできないのです。

～ひとつの妖怪が日本を徘徊している、きずな主義という妖怪が～ 現代の日本にはつながり不安症候群の人たちが溢れかえっているように見えます。誰かとつながっていないと不安だからあたりかまわず四六時中スマホで文字を打ち続けている。仲間内の関係の「きずな」だけが唯一の自分の命綱だと思い込み、いざその糸を切断されると、もう私の居場所はないと苦しむ。「つながり・きずな教」を盲信している社会では、そこから弾き出された人や距離を置く人は、変人奇人、のけ者にされ、いじめられ、揚句の果てに敵対視されかねません。ここ数年私の耳には「きずな」を賛美し、「つながり」を唯一無二の人間関係だと唱える布教の言葉が、歌・漫画・小説・ドラマ・評論などに形を変えそこかしこから聞こえてきます。私には「きずな」は人の行動をがんじがらめにする見えない鎖のように思えるのです。それは人に苦しみを与える原因です。他者とのつながりを求めれば求めるほど、それが断たれるであろう時の不安が増すばかりで、その不安が強迫観念となって、見かけだけのつながりを求めて右往左往しているのではないのでしょうか。「きずな」という名の見えない鎖に縛られた行動はあるがままの行いとは言えないのです。

お釈迦様は一度その鎖を断ち切って、真のあるがままの自由、つまり孤独であること、そこから歩み始めなさいといっているのです。犀の角の歩みをつづけることは「孤独＝無我」を獲得する歩みであり、その道のりの中で初めて真の絆を感受することができるということです。それは法灯明に鮮明に映し出される、私と善知識とお釈迦様とを繋ぐ「法の絆」。自灯明が照らす「信と行」の歩みはきずなへの執着を一度断ち切る行いです。そして日常の中でその歩み続けることで、私と宇宙のすべての存在とを結ぶ関係の糸がだんだんに再構築されていくでしょう。私はその毎日の行いの中で再構築された関係性を「絆」と呼びたいと思います。私たちの毎日は社会との関係性の中でしか生きることが出来ませんから、その「絆」は一見今までの「きずな」と同じように見えているかもしれませんが。しかし「犀の角」の自覚を持って日常をあるがままに過ごすとき、私の関係性の糸は縦横自在に時を変え所を変え自分の計らいを越えて繋がり紡がれていくのです。そして当たり前の日常こそが、毎日を心穏やかに楽しく安らかに過ごすことのできる毎日であることを私に教えてくれるのです。

夜空を眺めていると「銀河鉄道の夜」と宮沢賢治に思いを馳せてしまいます。彼の作品は、独りである自分と永遠のいのち（宇宙）と共棲する自分、この相反する二つの思いが生んだものだと勝手に思っていました。最近読み直すとちんぷんかんぷん。彼の童話は昔よく読んでなんとなく分かった気になっていましたが「分かったということが分かっていなかったこと」と分かっただけで 琉游舎：戸井 出琉・恭子 今後はよしとし、本格的読み直しは棚上げにします。

それでは次号でお会いしましょう（出琉）

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

Mail:toi101izuru@outlook.jp

注1：「ブツダのことは スッタニパータ」若波文庫 中村元訳

注2：琉游舎だより第17.20.39号